

知財・情報フェアに見る商標分野の進化：2025年 vs 2026年

2025年：技術の提示 (AI検索・監視の登場)



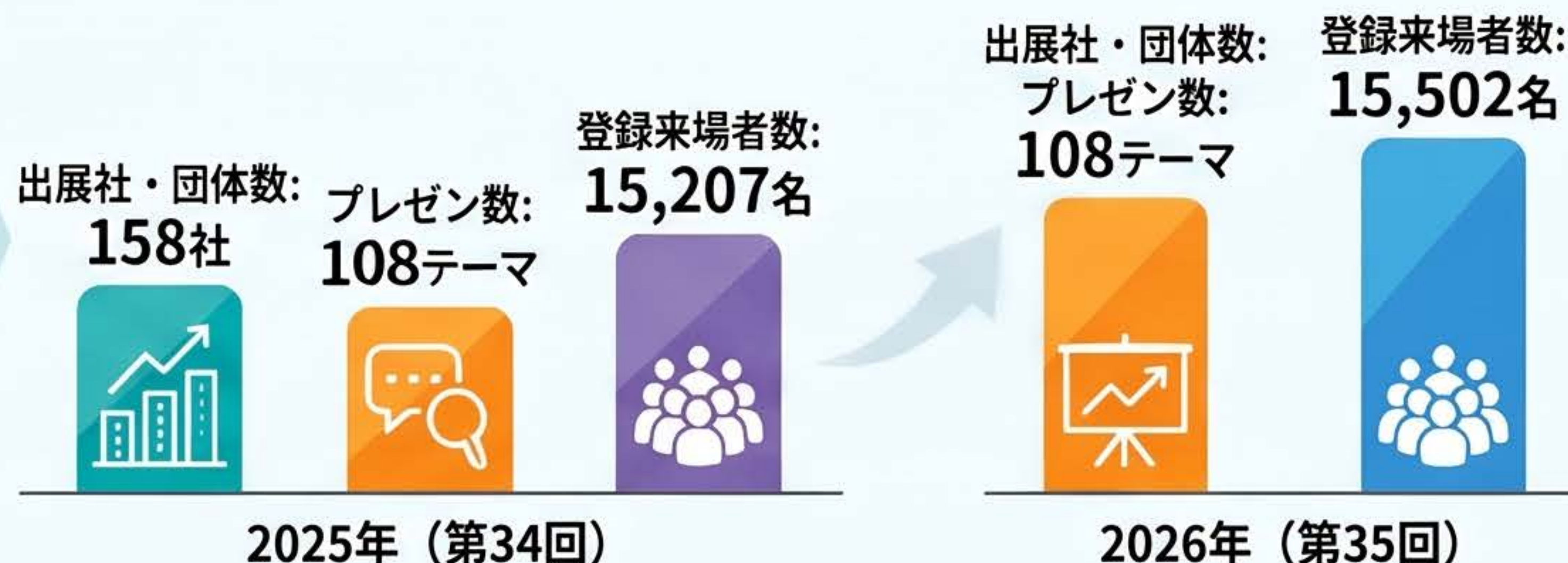
単なるAI検索や監視機能が中心。

2026年：組織・業務への統合 (実務的プロセスの進化)



より実務的で組織的なプロセスへ組み込まれる段階へ。

開催規模の比較：出展規模と講演テーマの拡大



2026年における3つの進化

「機能」から「業務フロー・組織」への踏み込み



単なるAI検索ではなく、申請・承認・役割分担といった管理業務の自動化が具体化した。

AIの信頼性と機密管理の徹底



データの国外流出を防ぐ国内環境（ソブリンAI）や、AI利用ポリシーの公開が重視された。

経営への説明責任と指標の導入

削除件数だけでなく、
侵害品の流透を
どれだけ抑えたか
を示す「侵害率
率」等の指標が登場。



日常業務への商標チェックの浸透

Japioの「商標ス
キャナー」により、広
報資料やパッケージの
商標を即座に検出可能に。



日常業務への商標チェックの浸透



日常業務への商標チェックの浸透
Japioの「商標スキャナー」により、広報資料や
パッケージの商標を即座に検出可能に。

ユーザー企業による登壇の急増



ユーザー企業による登壇の急増
ダイキン、ワコール、サントリー等、実務者
による導入・運用事例の発表が中心となった。